

JALがタンチョウの翼で日中両国を繋ぐ 北海道標茶高校生徒の訪中・現地学生との交流を実現しました ～日中青少年交流促進事業をさらに推進～

JALは、2024年に迎えた日中定期便就航50周年を契機として、ブランドモチーフであるタンチョウを通じた日中青少年交流促進事業(*)に取り組んでまいりました。両国学生が、それぞれの自然や文化を学び合い、友好と平和への意識を育むことを目的としています。

東アジア固有に生息するタンチョウは、日本の北海道釧路湿原と、中国黒龍江省のザーロン丹頂鶴自然公園を主な繁殖地としており、日中両国国民に親しまれています。両湿原にゆかりのある高校として、北海道標茶高校(北海道川上郡標茶町、校長:後藤 卓)とチチハル市三立高校の生徒たちが、昨年初めのオンライン交流を果たしました。

その後も両校のご協力のもと、JALが両国の関係機関等に働きかけ、このたびついに対面での交流が実現しました。北海道標茶高校の代表生徒5名と教員が中国黒龍江省に招待され、出発日となった9月13日には、釧路空港にてセレモニーを執り行いました。東京へはJAL運航便で、成田空港から中国へはJALグループのスプリング・ジャパン運航便で中国へ渡りました。



釧路空港での出発セレモニー

高校生同士の交流の様子

異文化体験(餃子教室)

中国黒龍江省チチハル市への訪問で高校生たちは、タンチョウが住むザーロン丹頂鶴自然公園の見学や餃子教室、太極拳の体験など多様なプログラムを経験しました。両国の高校生が対面で異文化交流し、言語や文化の違いを超え、友好な関係を築いていくことを期待しています。

JALはこれからも日中青少年交流促進事業を発展させ、タンチョウという生態系の保護と人流創出を掛け合わせた交流プログラムを展開し、「移動を通じた関係・つながり」の創出と地域活性化に取り組んでまいります。

■訪問スケジュール

- 9月13日 : 釧路から羽田へ移動、JAL機体工場見学後、成田に宿泊
- 9月14日 : 早朝、スプリング・ジャパンの成田＝ハルビンでチチハルに移動
- 9月15日～16日: ザーロン丹頂鶴自然公園見学、餃子教室・太極拳体験など学生間の異文化交流
- 9月17日 : 早朝チチハルを出発し、スプリング・ジャパンのハルビン＝成田で帰国、都内に宿泊
- 9月18日 : JAL本社オペレーションセンター見学後、羽田から釧路へ移動

(*)2024年12月18日リリース:「[タンチョウの翼で日中両国を繋ぐ 日中定期便周航50周年記念事業を実施します](#)」

以上